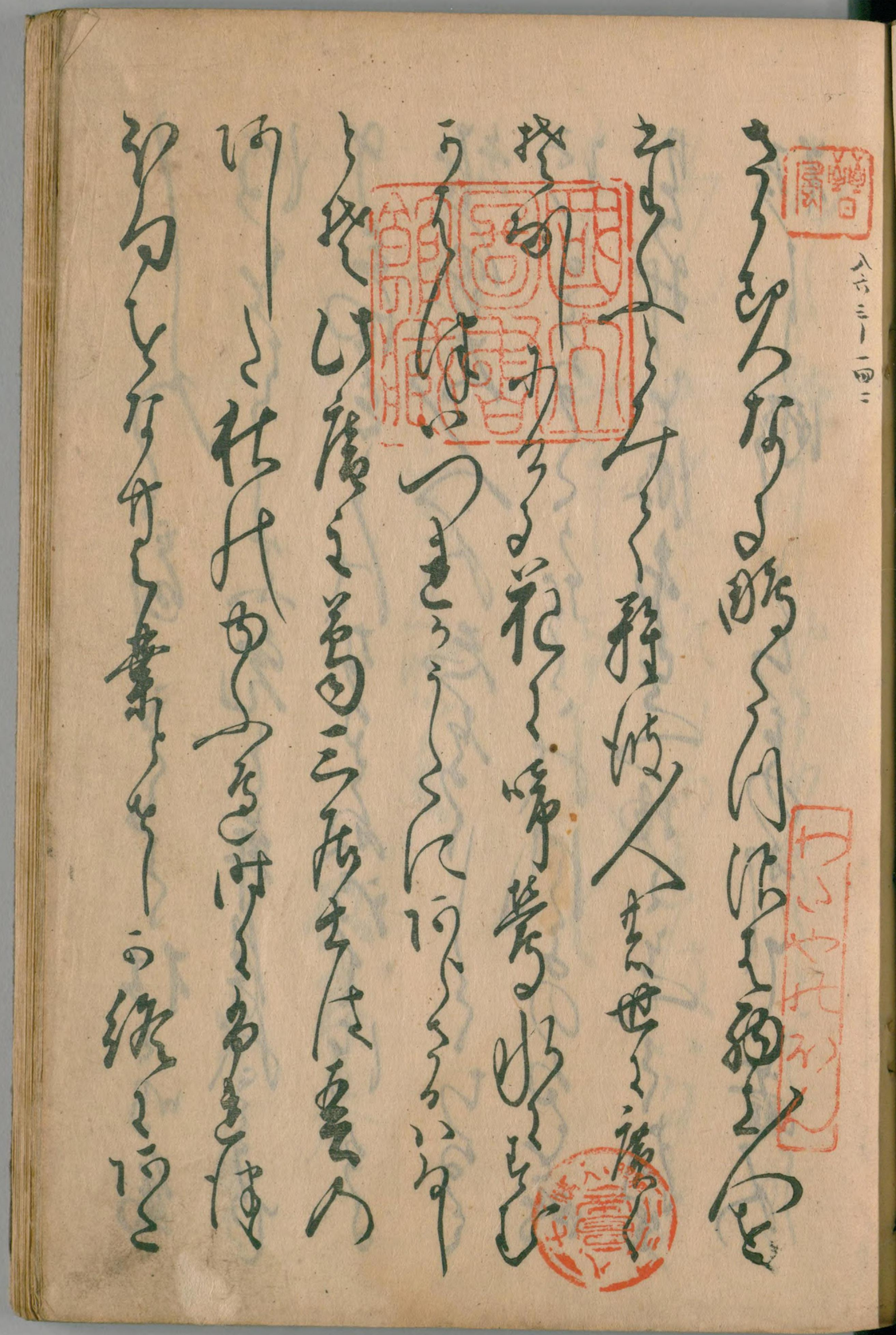
礒清水

863
142

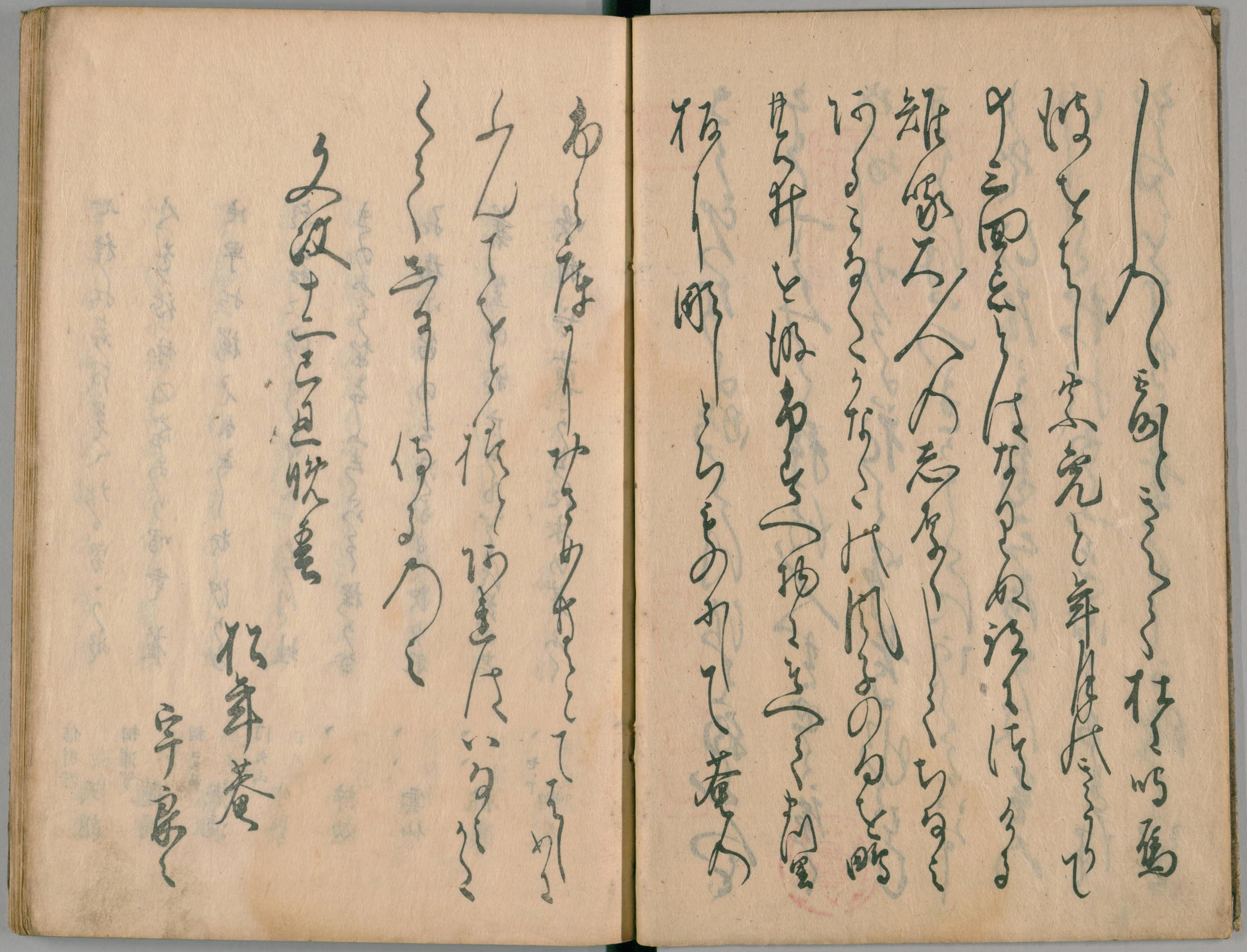
国立国会図書館　タイトル『礒清水』 請求記号 863-142

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142

ガラス使用

七種は為成さんとする男こうの形
人を活体の命あり唱雲　崔　信別所　天朗
片甲は桜ゑなきゝ　相浦賀　蓮漏
新雪に消ゆる夢やいとけなき蛙　相コシ品　漱流
きのふから梨本ふたらるる桜うる　門大山　宇良々
石橋小笛の吉野ふる月おくれ　〃　梓効
義経の新広みもせられ花の去　〃　雲仙
吹折や菓子に木の芽ふく　〃　桃隣
〃　セヤ　如々

桜の雪小押ろく月の御子れ
花ちるやくるにく気のほるねうち
桜咲く猫活の古本を開ひ雪
唱田螺ものあるよりとれとる
投出したるなきゝ夷乃海
茶屋の前も松乃ち出うる
茶浪は立出ちゝ桜
芝の浪は立出ちゝ桜
芝や立ちゝ雨陸に秋の夕

相大山釈　夷二
門當ナ　吐丈
門松本　柳月
門一色　嘯月
門入野　百丈
門西島　扇風
〃　拙堂
〃鎌倉　芝英

山里や焚火に成焚てうめの花
素もかちと打て風雅に結ぶ
長閑さや馬へ投るかし布団
正月に並のたく張やうめの花
清雪や物ほす里のむすめ
打ほ伸ぶ一枝吹て鶯有
夷乃身義ちちきと暮ちう
小菜苟の並ぶ定めし二月ぞ

信板木 禎雅
門塩尻 岡耕
門中島 萬雅
門十輪寺 冬扇
伊与 山月
越高田 李仙
門 斗遊
上毛浅原 壺半

二

年〳〵や夷にさく出る芳の花
片道て暮て吹ちう矣の花
君ゝ代や打も倒るに時雨人
初子の日寺の門ほ宮へさきの人
淋〳〵をうんをうくりて松乃花
紫舟の煙て消ちう夷の雨
白魚や何処ゑら神のあらたか
小鳥吹夷に毎きて茅の家

武榎戸 玉芝
門中瀬 琴調
相小田原 嵐窓
門画ノ島 橘茂
門 碧水
房天津 市交
門 如朝
門 竹里

笑くしく明移ひ声きこえれの元
うゑうゑの法隆寺もきこえの雪
寒庵さゝ沙弥こゝい扉あけ寺り
三日月のゆくゑ入角やうめの元
判官のりおもきれすゝる弥生ゆ
鳥の巣や人目見ぬ蒲ゝ笑
夷比気ひ先叫ひゝり京乃丸
繻子や鰍落迄ゑの泡

相彌勒寺 月弐
松邑
落幡 梨冠
完雅
房天津 花隣
春志
磯村 萬壽奥

三

相大山 雪鶏
汀沙
蘭舟
子易 東籬
春吾
嗅嘯
對雅
梅沢 梅兄

ゆゝ動ひ多や鶯の夜袋
鶯や筈根ひ寺を笠に着く
繻子鴨をゝ法ゝ宮ゝ寺ゝ
立ゝゝ雁やゆゝ寺もある夷を
空歩ゆまい人の世ひ教桜
ゝゝゝ年ゝ以ゝ寺ゝとゝゝ
三十枝ゝゝ花ゝも返ゝゝ
新霧をゝゝ登ゝる寺ゝ雀ゝ

打解て嘸ましむらんかたもなし
人もうらぬ梅や　巣ものの　新朗
蘭の花　袖うち梨は　咲小竟
まにもまくらくさくさ　枝の梅
雪ふれ便もうもせ　俗唱　恵
梅ヶ香に連て田雀のなきあり
梨子の花　有を裾に　ちるうらさ
摘さ成る菓といつやきのふ

、塩海　白鳥
、川白　蘭香
、中村　花杏
、大磯　仙花
、寺棚　求我
、長持　五齢
、厚木　薫岱
、、　梧井



うらは巣や外の奥ゆかる藤堂
夕風の吉みまとまれ藤の花
ゆる菓摘鼻の先ぐらく梨ちるる
ゆるかして鳥寄ぬにぬくきゆる
ゆくまるく折くく立去桜ゆる
ゆるや小笠隠れは癖とれて
夕ゆくふくらゆるくくゆるや藤花
こ地おやうち出て待ゆて離子

相厚木　白水
、津奉ノタノホ　長松
、中沢　大旭
、カハ、　堀子
、伊勢原　亀什
、下原　曽中
、、　原子
國府津　押河

雨さつ〻降めく時や花　菫
櫨の葉は中〻いれ新や夷の雪
ちらつきと散る雨雪〻〻うめの花
引潮に投る小艇や夷めりせ
濡色はいつもの草や雪の富さん
石橋や外ばく〻れ秀　〻〻
其れ番はう勢雪〻〻うめの花
納戸の軍にメうる鶏乙鳥

、石藏　笘吉
、柳川　凡和
、一色　禾頂
、川白　耕兒
、片丘　亀石
、大磯　稚古
、[illegible]　乙鶏
、別名　婦山

五

裏〻〻車も中〻〻〻挟〻〻
多〻〻人ふあ〻〻〻〻〻〻桜
新に寸を拾〻〻や〻〻〻五十年
思〻〻〻〻雨ふおこたる〻〻〻〻〻
手向〻〻〻植ずと咲ぬ〻れ　菫
冬ふ丁〻れも〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻庭〻〻亀のありけ敬〻〻
大〻〻〻雲雀ゆ形の田ハみ〻き

相別名　山舍
、中原　文雅
、北大縄　奥水
、万田　呂清
、伊勢原　芳水
伊豆熱海　吾千
、、　〻〻み
カワサ　白老

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

苔の苔に力のいとゝうれ
し雪もとけ初し時も有喜世
士乃中の稚子堪忍の実
初花や彩ゝ並べ咲ける
弥叩拍子赤き実の両
現ありし古宮さくや梅早苗
初雪や二見ヶ浦もかくれ
菜外に雀ちいさう鳴き

担大磯　希言
〃　仙鳥
〃山下　稲舎
〃下谷　葛年
上毛草津　夜雪
〃塩平　壽木
〃赤岩　淇竹
〃三島　貴逸

六

東風に四方〳〵花の咲菜哉
云待を為れた紅乃雪を見
おゝ雪も引とけ花さく春むら
木に乃ぶ高く人稚き山きゝら
ゝゝ稚ぶ花ゝの時ぬ柳うゝ
学に又初ゝ更ぬ栖了菊
きれ雪に付う高く廿日月
ゝき人に知も〻雪きれ山や秋の梅

相模越　泉鯉
肥前大村　才長
士焉
伊勢松坂　翠川
東都　蓼松
相藤沢　道不流
〃　三喬
〃　其春

[illegible]　雀堂

、、麻都良

、、植不流

、大磯　以方

、、東晞

、片瀬　蕉詣

須賀川　[illegible]

モロ　碩布

アキ　玄蛙



むら〳〵男なとあとされいと夷の舟

清狂家此橋暮り梦大うな

新雑みやよく歳なとの雲

赤きをとてもうあ宝をてて

きんさの杉こい夷此名の亟

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

さそなりかい海うう夷の舟

葉の花の袁かなるあや叶そ

上毛太田　掌石

[illegible]　曼南

甲斐　漫々

浪皮　寄淵

長崎　菊也

梅室

蒼虬

相腰越　奥盛



国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142

ガラス使用

夷風のうたうやうなる隅田川
雪は板折ならぬもの柄こうる
美島にれしまるめとの葉の蔭
鶯や新日さす窠乃小柴垣
、、里人
、平塚 士未
信山寺 蕣齢
相円行 珠山
沙汲

八

上毛新町 硯二
雪中菴 對山
相画ノ島 篤朗
、、甫柳
、、丈栗
、、四朗
、戸塚 鈴子安
、、梅堂

新しいのみ立ち咲き花淋し
葉ばかりに咲を夷ぶり彩の雨
猫の恋片寄こうもしし恋の舟
葉の巻や去 稽古れの星子花
枝折戸や蜂も来るも家
山かげのたちかもうたる藤の花
雪踏ちらく匂ひさうふや梅の花
梅ゝ巻はかれてや金瓜の乾ける

夷乃舟山ぐ累里ハ多こうりし　嵐外

茅屋の外ゝ風ぢゝゆの蕎　相小田原 菊外

寄ゝ月や神酒居ふ切磨の麦　戸塚 一露

水仙折ゝなれと花の鉢　朗（トウカ）盛風

川尾ふ新も拙さん咽る丁　（コシ）東栽

下落やまゝ多ゝぬと蕪ゝ徒　一肖

行ゝ雲蒼ゝ秋深ゝ去る棲　以吉

角の呼や余空の時の口　（キクマ）月之

九

## 根起俳諧

夏のおや気色を拾ひ家も素し　石士

凉めゝ中ゝ市中乃月　雑啄

松樹人の齢のちゝ秋　百亀

ふ二をよゝゝゝ紅い葉に至　檜路

盃をちゝん筵乃夷風　八椿

雲ゝ家を誘引ふ子供等　十里帰

素良ゝゝゝ物も落赤く　安成

情を情隈を義　笠　布玉

深雪の消る折の和小病ほうけ　東晞

曉寒く　鏞　燒　礒　佳喬

鬼や早し牛に鞍置身の秋　壽山

絃俄鬼の泳し霧のはもも　珂雪

西瓜別合甫う辻を散　柳　士德

ちやと春人に年もおくす　量可

村雨の物き何はく中ち焼の夢　依雪

汐狩　花　版を仕手　月年

一木之木折り谷の咲うて　里人

四つに指物里の午　蓬泉

蛙も言ふ家うちう掃く　物如

狭筵附　狩と高ふうちて　月古

傘外の山を赤ふ玉　仙鳥

棧の寄に折ふ冬の日　吐江

貝寄い歩ひうの高もうて　味嘯

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

豆腐のねさも時れ湖しく
動とり行ふさらんかさて時
苗のけさ多多植さ
住吉れ清水の淀のあけひく
虫もうさんて鳴る七夕
桐れ葉の落るさに身ら庵
けやさ戸も動ん秋を覚こう流
葉に後も出られ兼る赤れ猿

且木
李冠
白鱗
希言
主艶
芳水
壺栖
雨滴

雲仙
梓効
喪二
宇良
士表

雲る佛さ見ら外
家相窮をきの仕舞めて西の隙
蓬蓬揚さ併のを浪ヤれ
花の点れさに寸枝指さ
懶小留守れきさ点吏めの日

徒起誹諧

撥越連

薫る冬も清さ寸やう寸り松乃変 吾士
合歓 変新乃ゑ小流る

雀角

自の[illegible]紅を中[illegible]時迄[illegible]　英之

今年の酒乃配[illegible]れ　[illegible]　奥盛

御寄[illegible]葉山[illegible]ぬ[illegible]　角

所[illegible]　[illegible]　鶴之

一白乃巣を[illegible]に脊負[illegible]　盛

[illegible]佛の[illegible]　谷角

[illegible]　[illegible]　之

[illegible]　盛

世[illegible]乃携[illegible]　角

脱[illegible]の携[illegible]　之

[illegible]川の自慢の菊の咲[illegible]　盛

[illegible]　自の[illegible]　角

[illegible]も[illegible]の西[illegible]　之

望も[illegible]　川堂の[illegible]　盛

[illegible]　角

蝶[illegible]　之

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

## 狂起誹諧

六月や十日くらをもつ一ま柄　吾士

人のさそくぬくらぶしのそれ　葛古

呼け雀まれ来いえをとれすん　雉啄

多くん行仕　舞　椽の落葉　古

秋のおれ蛍ちれそ行ら鳴　啄

術荷ちくれそ祭うん身　古

そうぶ中い雁の名まそ実拾く　啄

丸くこ集窟仏の多波　古

多仏の建の多あらう紀そ　啄

竹ら膳ちや辻れ　舞と　、

世に行い案そのの義さくうそ　古

松の毛ひら和ら出くく　啄

屋浦ら梁竹清ちあうたうくく　古

そくら穂もうたぬ社家所　啄

乙のように名を儀たぶ身の秋　古

[illegible]　　啄

花の香の移るに撫る風の吹　　古

十三年をあれしの夷　　啄

## 狂起誹諧

大山連

籠人の掃除しるる落ちるなり　　吾士

新あのゝき　椎の木　れる　　樗一

春雨中の蔵貧らのり出して　　メ也

豆ちる家　のちる家　四　阿　　菊社

初月の雲ちる家雲小淵ちるり　　苔丈

月出いたん　稲の香の中　　多寛

連も秋の気おれ深井堂　　敬績

笑ひ[illegible]奥の金ちる　　柚貢

憂人を半れ蕎麦に暮れ　　白波

袖笠西小折りひ[illegible]ぬ　　悟雪

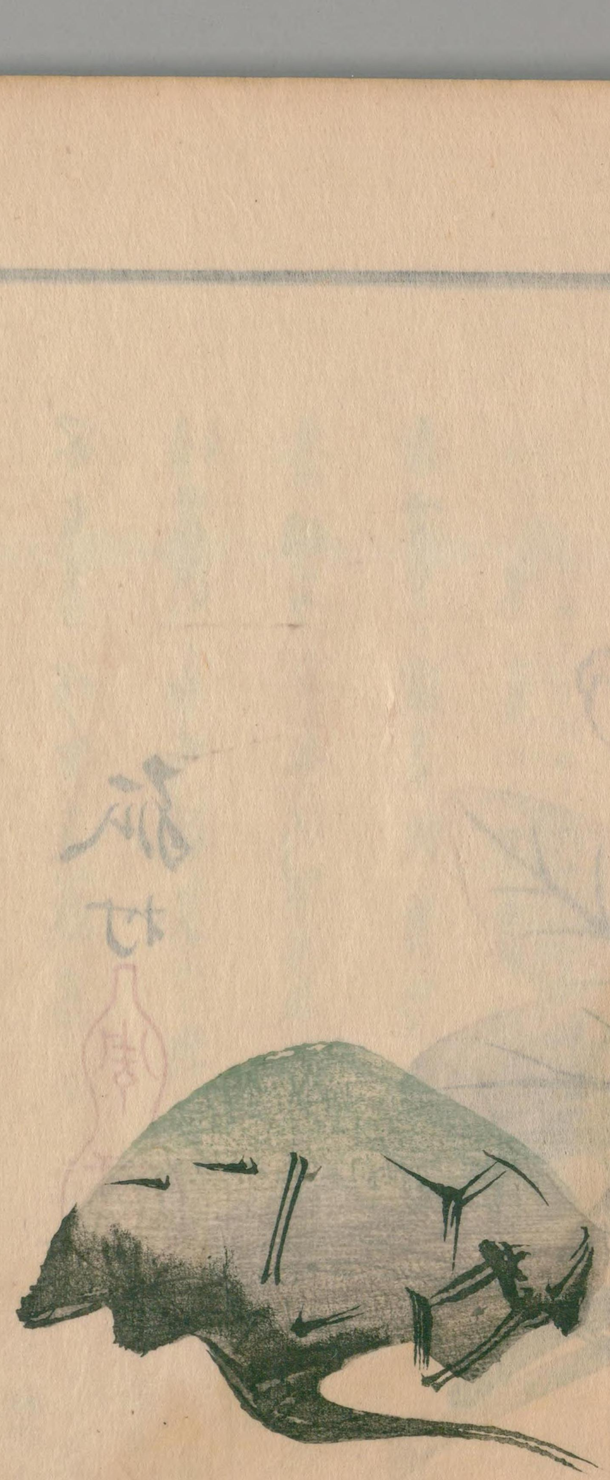
何秋ち彩む便りの白帯　　多寛

紫を於呂しる欠ちする西　　于義

落柿舎も留るやうに身に須さして　宣頂
垣の外うさに雁の声はうゝ方　采窓
勢ひの矢うらもゑ紅葉　柚貞
妻〳〵に樊噲　敬績
花の宮うぼうの妻の新もゝし　稟項
古きすゐれを　離子　万太
小鰤汲水曾の案ことおふ入　石波
隙を吾ても　馬の　嘘　撈一
　　又也

九四年かゝ雪ふ〳〵出来〳〵西の宮　菊社
髪切罷をかゝきれて　苔丈
末兎ろきゝ勢〳〵告る雞面さゝ　采窓
ゝ為て〳〵通る　鰐の　一書　稟項
辻堂の庭〳〵杖も引　悟堂
松の木に写に天ゆる　僧立　宣項
雲ゝゝの線て至に秋ゝ　于義
畳もなゝ枕身に枕の吉　菊社

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用



極に出れい蓼のくるもるおさし　多寛
空の一移ホ　みも　百さるめ　采窓
多飯い佛も去るぬもるかるもの　于義
暑ひ外こうう去るに　永題　区也
ホ〳〵に鬣の蓼おうしまし〳〵く　宣頂
寒さい今に出くこうるうるう地方　悟雪
常磐木の横も奥ある花咲く　丁ル
嘉也清多を掃除する菴　多

孤村
寿

国立国会図書館　タイトル『礒清水』 請求記号 863-142

ガラス使用

夏の月明しを買に人の絶ずと
宋古堂吟や麦搗葺の戸　相ヲ宮釈千里帰
泊骨の色も拙ず　朗　、腰越、崔甫
巣相ふる風沢ずゝ枝牡丹ふる　、画鳥、梅莪
音宮ゝ溢ちに月の蕊ふる花　、大山、西滴
　蕾之蕊わら茶蕃紅彷ら与れ折ふるのみ　、、壺栖
　いみさられ中ゝに出ひ中ゝれて
蕊子長　清き言葉に耳にたり　、、丁八
巣ゆかや古代ゝ中ゝ拾ひ　、當ア南謨



ゝの家砂山岩に濱の子等　相伊勢原釈龍子
頼ゝ与ゝ二つ水ゝてゝ　、大島、大瓢
紅葉れ　蟬に清め中ゝ川の月　、大磯、珂雪
宋古堂れ月出ゝゝ吟ゝ中ゝ　、今宿、秀亭
涼しゝ中ゝ与れた作の破乃家　、南湖、一巣
ゝ高れ笛ゝ与ゝ中ゝ文乃山　、下町屋、登龍
亡ゝを悼
月ゝの指ゝ中ゝ中ゝ　、堀、府尺

夏の虫念仏ゝく放しまま
流れ出ゝく世ふ清ゝ清ゝ
秋を待ふ山の麓ゝ冬ゝ南

、神戸　且水
信州杖菴　八朗
、善光寺　龍池
、坂木　兩紅
、、　珠来
、中島　路申
、八満　葛古
北越荒井　旭浪

松蔭や去年乃葡萄苦清ゝ
隠家ゝ山ゝ家ゝ銀杏ゝ夏木立
月涼しゝ夕ゝ雲ゝ家ゝの亜ゝ



川原の虫きゝゝもすゝゝ
ゝゝゝきゝ吟ゝ世の淋しゝ秋の

清水ゝゝゝゝ咲ゝ家ゝ
麦秋の背戸を乙ゝ女ゝ往来ゝ
藻の花や新ゝ乃不二南風
笠ゝ山ゝ蝿をたゝゝゝ作ゝ
ゝゝゝゝ風ゝ場ゝ家ゝ
蕣隙の月きゝれゝ故ゝ故ゝの花
紫桐や雲ゝ雲ゝ雲ゝ暑ゝ
暮ゝ四ゝ蟬ゝ松ゝ清ゝ扇

武勝場　如水
上毛大原　茅丸
武中瀬　石鶏
高島　溪亦
相浦賀　有柳
、、　柯香
房天津　貫志
、、　竹有

国立国会図書館　タイトル『磯清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

蠻栗咲や山ゝ見ゆる後椿の宮

物蔭も枝ぬけたるやゝ蕊子花　　相大山　稟項

五月雨は花ゝ似合ぬ藤棚　　、、　敬績

ゝゝ折れ清や筥と鶴の宮　　、、　宜項

捨子や蟲ゝ中ゝも椿さく　　、、　多寛

暑れ日は子に味はる麦湯哉　　、子易　東子

紫陽に初ゝ梨登るやよりの山　　、日向　さ雄

紫陽花ゝ多ゝ日新や之中さき　　、亀井野　可都良

稲麦の青ぬ暮や若の花　　相塩海　八椿

初松魚ゝ紙出ゝさゝに咲ゝ　　、下原　壽山

ゝゝ咲ゝ岸ゝ枝述も咲ゝ　　、大磯　之保

蟬咲や保山ゝも咲ゝ　　、、　布玉

温ゝ行ゝ梨の湯色ゝ中ゝ楓　　、、　志啓

一日も山ゝ高ゝ咲　　、、　兎山

老僧の鍬にゝ出ゝ拾ゝ　　、金目　凡一

ゝ雨ゝ有ゝに羽を干ゝ破の音　　、鎌倉　宗慶

国立国会図書館　タイトル『磯清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

是芝居を見て帰り四角なる
茅屋やきのみにうつの幸けうる庵
山うけの自然を床もや田植唄
霧雨や城家写を通清水
りれもりの杉小坂風れ新緑
鶯の見限る空城宋古多

、田村　五城
、梅沢　平山
、臨海　遠長
、但勢京　主艶
、入野　量可
、川入　槐堂
、萩野　芳居
、大神　鞍人

十四

浪写る案内の咱て来る茅舎
鶏の声乃海る案内る葉山

声清水の果や余呂峠の波
ちれ寺の入相遠し若楓

相中九　孫山
筑前博多　英風
相津大井久保沢　伯歳

高風ふくいちれ稲穂の茶屋
彩る葉紅めき立る百蔵

、畑窪　豊居
、享木　年彦

林樹日よる宮も空小茶屋
うら里の蔵宝に入や梓神

、入野　白鷺
、中九　完左

滑風れ柳に禁る出了水
うら風呂の空変ちうれ交の身

、カケトリ　一賀

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

田の入をえさく五月雨の末
三日月の居住居まるる草　藤沢　露時雨
山紙や人を祝ひ古き　、、蓬泉
月に四小花のよし咲も咲りなる　、、以興
山科や歳を新迄　柘　妙　、、関武
濵よりの中多なる苗代投て植く　上廿東金　音人　、、女　押波
八幡嶺の山や夏うとと天の川　、、呼牛
野の中や一和えの百合の花　家ノ子　弄亀

柳は花咲中地酒の一番少
田の道の田に寄られて急る毒
鶏の羽に迎迄　牡丹ら分
休矢れく祝田は上や令歓の花
村瀬を笑く焼の田植
これの峰寒を苗日ら二四ツ
今一花ゆうて暮く苗運ひ
五月雨をえちんさきまる紙作て

上廿堀上　牛呂
、廣瀬　求奥
、、亀毛
、福俵　皎雪
、、永保
関ノ下　椿叟
下廿馬配　鳩羽
、豊栽野　雪杉

吟蟬の方き神鹿ろれ花ゆ
ちふも迄に嘗のある椒て南
松風拾繁うもきく宗古音
扶を芋き皐身隆する栗の花
森とかき毛ある や要求苔の上
仲の子や姫ゆしに芋く長京の灯
翁の芋く殊文義もちゆさて
菊の苗芋く男も更衣

、、雨塘
上毛草津 竹煙
、、菅氣
、、稀星
伊勢 淇石
、、省吾
画士 夷白
武蔵泉 古玄

武八王子 玉淵
下毛豆利 管鯉
、、ゆ
東都 碩亦
、、何丸
、、梅室
行御 阿ゆ
北越高田 年眉

西に竹ゆ芋く蘆の毛に中ちる事
身ゆ小芋ゆ毛中ゆる夜秋ゆ
畑ゆく田ゆもあるや麦乃秋
湯ゆ毛に芋ゆく湯に熱ゆ花
肩に拾く竹や島田の附ゆ
押ゆく椒も出れ小芋ゆ祭ゆ
猿も出くゆ礼やすに芋ゆ
夏めくや高板毒ゆ出れ 米

清水さゝやゆかしき秋の夕暮れ　拾

西の方四方の景色白雲の　白き

秋風ふきれて猿之助の　懺こゝろ

陸奥　曰入

松風やゆきうくとうつる　蛍

相下谷　常樹

春和やゆきにうつる　華

、猪ノ口釈　一羽

起こふ新新元禄の和歌有りて

伊豆玉沢　有隣

大陸の美蓮小清こゝ是こそ

相コウチ　月志

紅梅の枝手の上や宮の常

京　梅價

銚子　桂丸

十七

鶯笠

鄭こゝなるや蓮の門柱　丹波　野揚

ゆくやうに吟やゆかしき松の　相画ノ島　八杏

浦島の森こゝは里や郭公　、、　亀子

和歌きん今はきにある伝法門　、、　鳥沙

何ものぞ二日こゝ拾て　陸奥　十竹

立新小森入とゝすや立猿蓑　相蕪沢　貢孝

こゝ呂こゝ書や白根の郭公　、打戻　其朝

蓑かこゝ湖こゝ入森の柱　、蕪沢　方鮮

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142

ガラス使用

葛三翁十三回忌の

法會を行ふ

今宵や汗も涙もひと志

松蔭やうぐいすの移れ箒

、戸塚　兎園

笹の葉に秋の五月雨

、、荷江

捨てよと掃きいたる蕃薯料理

、、文中

暮うてやる屋の松ふりぬる

、、童々

箒ぐれたる砂の移を考へ

、、里遊



、里人

田舍ものの見聞やしるし鯨

相戸塚　吐雲

移れ箒昨の外山のあしし哉

、、駕羊

結ぶて垂くはらうとて粽うる

未木

[illegible]

小江五[illegible]霧[illegible]切紫苑[illegible]

海[illegible]の道法を守[illegible]

[illegible]の井に鶏の合鳴や[illegible]催ひ

朝[illegible]時[illegible]れ[illegible]仲冬

[illegible]の[illegible]芋[illegible]

夫[illegible]

懶[illegible]荒[illegible]の[illegible]

北越横川　宜中
、、稲年
、川浦　酔桜
、、李堂
、高田　井兩
、、左角
、、之介
大坂　釣翁



名月に嶮[illegible]三笠山

[illegible]

[illegible]

花[illegible]美[illegible]

片[illegible]芒[illegible]

[illegible]秋の暮

川[illegible]

松[illegible]

菜[illegible]生[illegible]

上毛新町　川二
、高崎　糸頼
、新町　鳳石
、新川岸　鶏周
、新宿　田森
、、家守
嘉年
上毛草津　奥柵

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

新新おもしろくもあるかな病ふ竟
銀屋やら新春と秋の貝にて人をる
又毋のいろ〳〵て蛙〳〵ちらる柳
秋の風柵ふ寄めて庭ふ寄る
脊戸の山嘘め移ら秋の夢
下馬札のうちや稲ら自秋ら
見たらや今年おそ花大粒了
秋風やくも茶ふ赤ふ色いろ

、藤丘　荒太
、浦人
房天津　朱守
、、雨声
、前原盲人　知友
上サモロ　其聚
東都　書鳳
、吸嵐



年おもの実新新好と赤ふ夢
ら新ら〳〵〳〵〳〵〳〵秋の雲
角カ〳〵り樗を拾ら通ら
大ら中暮ぬ〳〵〳〵〳〵秋の身
ら赤ふ行ふ〳〵ふ秋の暮
鳥ふ〳〵四ふ〳〵蛙〳〵女帝花
蛙〳〵と栗粥みやふおそ
豆斗ら来〳〵住曲寂や茶ふ茶

相大山　樗一
、、苔丈
、、占波
、、柚貢
、、采窓
、、山頂
、、谷友
、大儀　士徳

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

名月や髪ばらばらの娘達

、、麥畝

雨ぞやさらさらさらと夕立雨

、、佳喬

名月や山里迄も松の音

、、月古

雲霧を等も亀井の花のうち

、大島　渭橋

霧ふかや明るのやはひたかうる

、大槻　尤蒲

まれにそれいの絵くもうえの花

、熊向　亀徑

さて世はさうはらうたおそうる

、、

水極は雲ゆと赤ふ秋の風

、南會　百亀

廿三

紫陽や水をうたに出る大井川

相吉沢　石翠

松の日ろとう信ぶる芋の葉

、山際　きく雄

明鳥明るく白菊　黄葉了雅

、平間　五雲

清流柿もたるもの葉に深世ゆり

津井中沢　柳淵

屋角力秋の音に稲り歩利

、畑穴窪　大洌

鬼芋に色はゝ丈六松了菊

、久保沢　三松

捨薬山子やよ仏ゆもとん

相梅沢　地仙

鬼芋ゆくさくさ中ゆ栗菊の花

武宮下　天年

栗稗の鳥追ふ小家てふ

ふるしたる初秋ありや二日月

豆ゝやゝとうくゝまる秋の函

久留米 文甫

京 千厓

三河 阜池

蔓茅ふ豆白蓼やうるさしの

江戸 荷兮

蜻蛉の中ゆも黒ふ一ぬうる

、一蕙

初蜻やゆ呂ゆ咲くゝ蕊ふ花

、大梅

姫ゝ井の蓋ゆ出ゆ来たり萩の花

、應々

蓮ふ茶の一枝萩や蕙祭

、啓山

廿四

ゆくゝすに伸しゝ蜻蛉女帝哉

東都御藏前 抱儀

送り火の薬内も村ゆあるきうる

、田喜菴

衣さの茅もうゝたるおもゝ

、確嶺

墻ゆゝのうゝをもなきゝ秋の煤

相戸家 槁哉

名月やちゝさゝゝゆゝる不二の山

、全露

菊提ゝ茶ゝゝゆゝ搗めの人

馬年

みちのゝのゝ枝ゝゝをゝゝ

芙蓉

さゝゝゝゝ丈ゝゝ尼や星迄

十丈

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

切火をうや花ともゑるを
森〳〵れぬる松をぬはりうゐる鳥
中〳〵に立ちまくらくるを　の雪

伊豆五沢釈　一瓢
房清水　一松
相入野　依雪
信濃田尼　梅温
、小諸　三民
、中島　乙明
、八満　梅年
相模鳥　鳥流

山時〳〵てきぬ時ゆるを笹の霜
切先もわれらをさんに枯野てゝ
就法師と二人ゐ寒〳〵月をし
寒月のゝ梅ゐ踊る猫〳〵て
雪れ去ぬいうにも猫の寒に来る

笑〳〵ゐも法にもゝゝ夜明雨ゐ
風れ雪積ゐ雪〳〵行れに寒〳〵
凍〳〵ゐ雪や梅さ〳〵年乃暮
元隆歌　ゆ〳〵ゐ和ゐ〳〵　柳ゐ
初雪や口家屋ゐけゐる五の松
瓢〳〵梁屋の〳〵夜孫ゐ〳〵き
風の高〳〵中ゐ〳〵を丸ゐ月
鶯の巣〳〵ゐて高ゐ小夷ゐ

信濃沢　桃花
、善光寺　其祥
北越横川　眠弗
、高田　甫時雨
、長丘　石海
信諏訪　若人
安房　平雄
、儀村　日々坊

国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

摺の字は岸よりもうゝ信仕舞事を
菓の木まつかつれ山辺やをの舟
有明はうゝ鳴や　根　芝
摺賛ゝみを四角に信舟事
山里は編笠麦　郭ゝ雲をやつ
幾久を吟ふ虫のうつもゝ初しられ
明雀に巨燈萩ゝ寒ゝ秋ゝ
桜葉のちゝ信蔵ゝ月明

下毛豆利　百樗
、松田　芳齊
、、　歌都美
、、　花笑
弟小間　素考
上毛高崎　可布
、　支邦
、新町　関夕

世七

色川小狂書石を拾ひ寺利
雪にかゝ杉を養ひ命了形
黒髪も京のうちのよ柳たくき
やひもなき深草や雪の菓はうう
年寿を水にしてそり桔はれ
苔の小寿ゝ家も長者と居の雪
戸の外にものいひ拾ひ雪ゝ
灯小寿る中財兩乃無の風

上毛新町　歩丈
、草津　雷村
、、　蓬孫
、桐生　旬光
カラコ　有臺
榎戸　文玉
筑前福五　岩か
、　洞天

人呼を雲の岸くゝ垣招うれ
陣のみふゆや枯野を隔る越
たゝゝも雲ゝあるゝ冬武
ゝ敷ゝれゝ赤ゝゝ敷の骨

、千葛　蛙堂
、相大山　南岡
、菊社
、相　可亭
、塩海　美三禄
、山際　湘水
、荻野　為ゝ

日本機婦を思ひ出ん人や年の市
多仏や寒さを花のゝてむ年
あゝ世を花日新枯尾花
あゝ雲ゝき蟻の出歩くゝ夷哉

小夫陣おゝの日ゝの塚ゝ蔵
日ゝゝくゝゝゝる冬至ゝ旦ゝ
銀貨のゝゝ後ゝる暮の市
ゝゝゝゝ鳥の先や松の夢
月雪のゝゝゝゝゝゝ田ゝ
松い春ゝゝゝを合点ゝ烟代寺
冬枯や木兎の服ゝゝ月
投ゝゝゝゝ枯ゝゝゝ汚蔵ゝ

相半縄　祇岳
、山王原　和朝
、大島　ゝ雄
、大磯　月年
、日蔵　幾堂
、　杖志
、大山　悟雪
、百市場　蓬室

海をしゝ鶏振山の色乃月
雲にもるゝ雲の明しゆ
只の木ぬきおりひし雪竹柳
雀ゆも四五日暮て柘尾
春ふの雨とりのする人よ蓬蒿
酒の色ゝ蠅ゝ鳴ゝ拍ゝ
吹枯ゝ雪折ゝの蓑ゝ
雪有ゝ竹ゝ篠ゝ

、菴中　巴江
、大磯　安成
、越　英之
青隠
、ヲハリ　沙翁
、出羽　大橋
尚重
寸凧

混雑（ヨシサツ）

青の雨蓑菊の露ゝ
忘み角に浮も寄ぬゝ秋の雨
雲ゝや山ゝ雨ゝ雨の月
此ゝに咲ゝれゝこゝ菊日和
文科ゝ秋ゝ明ゝ雲の山
拍ゝ雲ゝ教ゝ雲ゝ柵
柳ゝ長ゝ山ゝ姫ゝ

信七秋
天地
、、素兆
、、田雀見
、五田　保橋
、、緯丘
、五明　蘭中
、、布川

むく鶯や井筒ふられい雪涼し

松風絃押つとめて彩の書

紫樊々々日暮行雁の声

菴の秋を樊々小禅小義の会

秋山の樊々ゆうに枯蹄る

編妻や鶴水引葉れ中

茅舎戸の穿さ々々湖蝶ゆ

捷ふれ半寸画山ゆ々き事利

信松代 梅菴

、、寸龍

、、三枝

、、文窓

信シノ井 牛堂

上毛下信 阿兮

相箱根山 青也

、荻野 洞々

蹄の穿を々々俤枯る柳了形

日々々にさ々ゆる事々彩雀

隙雪川々々仙冥や山雪 商山

雪すく酒瓶をたく々雪の彩

陽炎や引き々々る蹄 猛

廿小俤の更々花々れやゆ小

小雀や係小山彩き天の示

照迷々凍々々たり松の自

画都 斗慈

、久藏

上廿栗生 商山

画都釈 鶯浦

相左瀬釈 方水

、須賀、 物如

、大山 乂也

、子易 吐江

二人り来て短くしたる菴の秋

来るもの笑上戸や編める花　、高森　鈴石

、戸塚　露繕

十三回忌をいとなむ

法筵の掩ふ夏の

松　ゆを作きやうへ来るか

佛　ゆ　了れ　雄咏

十三年の罪風の

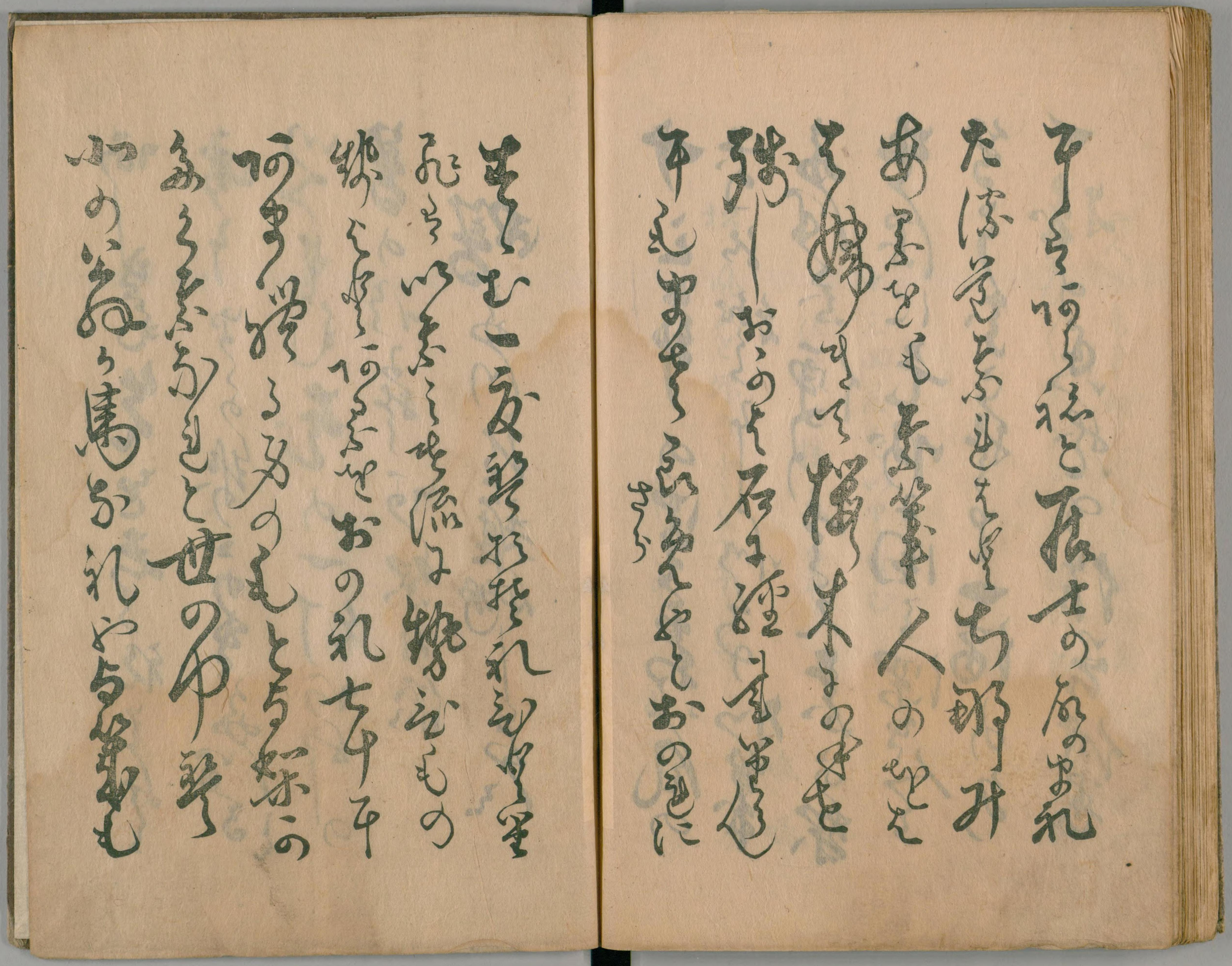
雲の郷の加筆

多摩系便りきて入る夏の梁

地蔵に元祢は国に深き人

笥うるふ夏に一滴の水

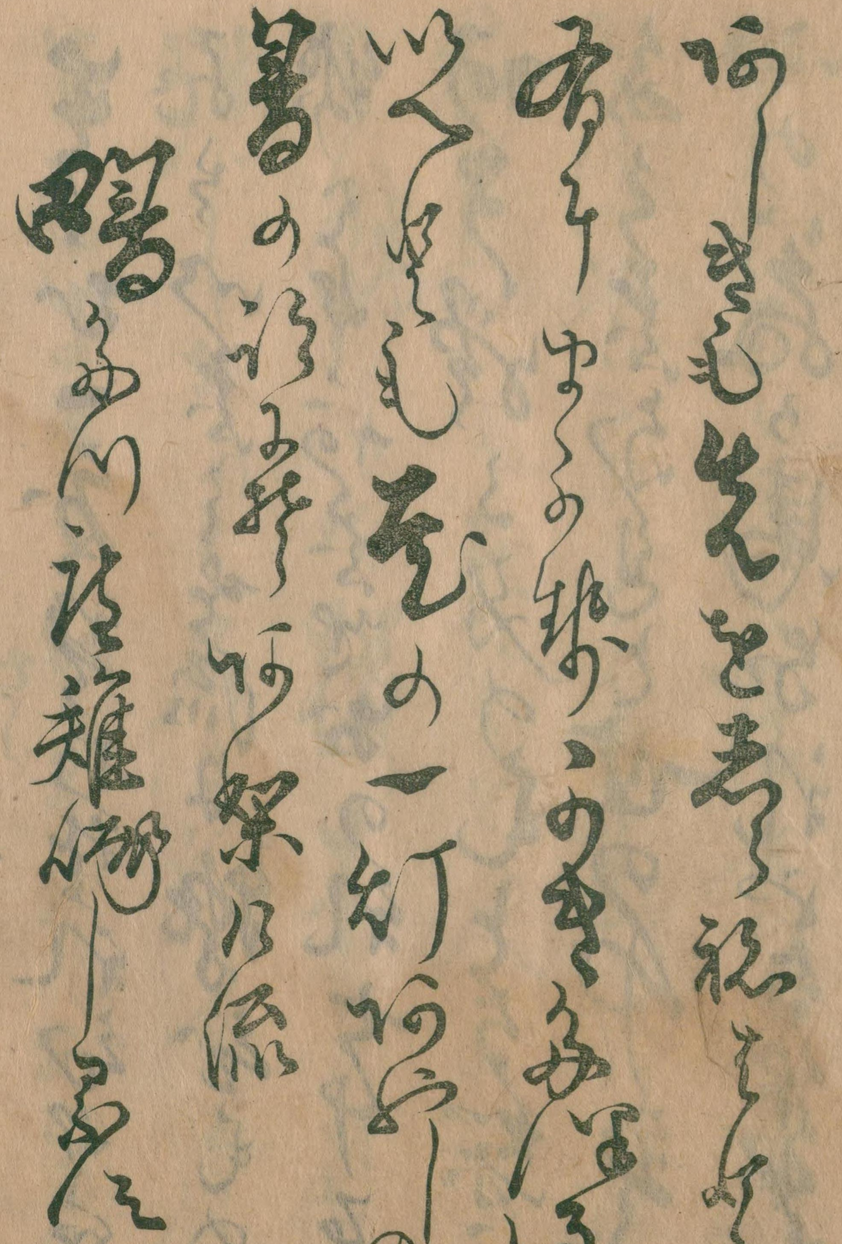
一樹の夏蔭の作品俳書



国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142
ガラス使用

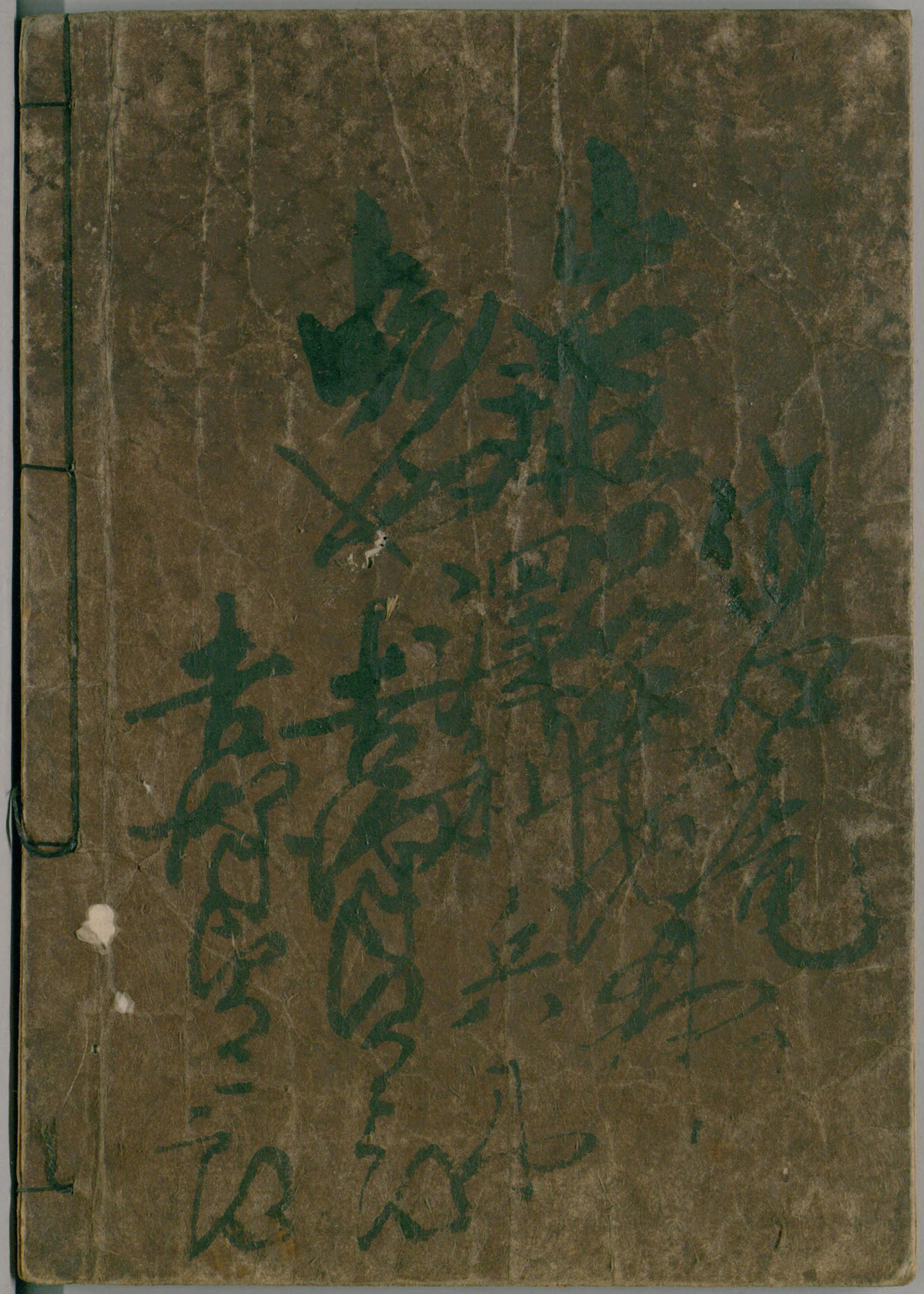
863
142

14192



国立国会図書館　タイトル『礒清水』　請求記号 863-142

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『礒清水』 請求記号 863-142

ガラス使用